NPO法人神奈川県自然保護協会　設立１９６５年１０月１日

ニュースレター

No.80

2015年 2月25日

目　　次

ページ

お知らせ・行事案内

貝塚遺跡から復元する平潟湾の生い立ち ---------- 1

行事報告

さがみ自然フォーラム ---------- 2

山のめぐみにふれあおう ---------- 4

県内自然保護ニュース ---------- 4

神奈川県自然保護協会からのお知らせ ---------- 6

神奈川県自然保護協会　自然観察会案内

お詫び

前号で予告しました「シンポジウム　箱根の自然　何が今問題か」は準備不足など当協会の都合により中止いたします。期待されていた方には、大変申し訳なくお詫びいたします。

神奈川県自然保護協会　自然観察会案内

２０１５年3月5日（木）・3月１１日（水）小雨雪実施※

同じ内容で２回実施します

大地はダイナミックに動くものだ！！

＝　貝塚遺跡から復元する平潟湾の生い立ち　＝

松島先生が案内する神奈川の地形と地質　平潟湾編

※　実施困難な天候が予想される時は、前日午後９時頃までに参加者に連絡します。

集　合：京急　追浜駅　９：００　　解散：金沢文庫で１５時３０分頃
その後京急金沢文庫までご案内します

参加費：大人　１５００円（資料・保険代他）当日集金します。

定　員：各回先着４０名

申込み：①　氏名　②　年齢　③　住所　④　電話番号　⑤参加希望日　を書いて
はがき、ＦＡＸ　又は　Ｅメールで巻末事務局へへ

申込み〆切：それぞれ開催１週間前　　または定員になった時点

持ち物：弁当・水筒・雨具・筆記用具など

コース：（急な階段を片道２３９段登る部分が含まれます。その他ほぼ平坦な道を歩きます。）

追浜駅　―　県立追浜高校　―　野島公園（室の木地区）―　野島公園展望台（昼食）―　八幡神社
―　称名寺（金沢文庫）

見どころ：

★　追浜駅近く鷹取川の河床にはかつての海蝕台面がみえます。

★　追浜高校やその周辺ではいくつかのボーリングが行われていて埋まった縄文時代の地形が復元できます。

★　野島公園展望台からは晴れていれば360°の景観が楽しめます。

★　野島をはじめコース周辺は多くの貝塚がある場所です。地面に露出した貝片を探すと貝塚が身近に感じられます。

★　**称名寺庭園で鎌倉時代の往時の栄華を偲びましょう。**
★　無線イヤホーンを使いますので講師の説明が誰にもよく聞こえます。
講師：神奈川県立生命の星地球博物館　名誉館員　松島義章氏

行事報告

第１４回　さがみ自然フォーラム（上）

テーマ　身近な自然の保全・再生　－　里山を考える　－

日時　２０１４（平成２６）年１２月２１日（日）　１１：００～１６：３０

会場　厚木市文化会館　４階集会室・小ホール

暮れも押し詰まった時期だったのに、200 人近くの方に参加して頂き、盛況の内に終わりました。

４階集会室で行われたポスターセッションは、昼休みを挟んで、前・後半それぞれ 1 時間の計 2 時間という長丁場で、参加する人にはずっと立ちっぱなしではきついので、椅子を用意しそれを発表するポスターの前に移動しながら行いました。

展示されたポスターや発表の概要　（五十音順）

あいかわ自然ネットワーク

環境省全国モニタリングサイト 1000 登録地里地調査報告

愛川町尾山耕地・中津（調査項目：水環境、カエル、ホタル、カヤネズミ、植物相、人為的インパクト）

採集・目撃されたトンボの消長 2006-2013　繁殖種、飛来種別のグラフ

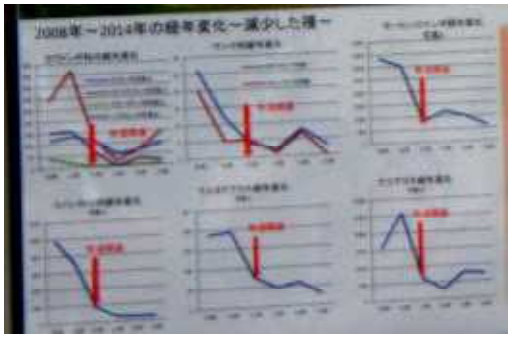
繁殖種の写真　飛来種の写真

尾山耕地で繁殖する種・飛来する種のトンボ調査 2008-2014

減少した種　ミヤマカワトンボ、ヤンマ科 2 種、モートンイトトンボ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、ナツアカネ　・・・2011 年の町道開通影響顕著

増加した種　ホソミイトトンボ。アジアイトトンボ、ショウジョウトンボ

田んぼの個別農薬使用調査からモートンイトトンボの減少には植物浸透性農薬の影響が考えられる。



ある時期顕著に減ったトンボ

あつぎ環境市民の会

地球温暖化防止活動　依知公民館でのエネルギー使用状況

市内の自然紹介

相模川　田んぼ　危機にある池や湿地　外来動物

会場を埋めた人　衝立の向こうにも

厚木市

- 生物多様性啓発ポスター　７種
- 生物多様性あつぎ戦略　４種

厚木植物会

健康こどもの森予定地の植物

市域や周辺の外来植物

厚木の川の環境を良くする会

西井伯夫　　相川小校長

会の紹介　平成 20 年から活動　活動内容

活動エリア　相模川右岸相川地区

相川小学校の相模川保全プロジェクト

相川小学校児童からの感謝のメッセージパネル

荻野自然観察会

会の組織

生物多様性の保全・自然保護活動の推進

講演会の案内

見られる野鳥

見られる小動物

見られる植物

荻野地区オオキンケイギク駆除活動

荻野中学校通学路アドベンチャー作戦

神奈川ウオーターネットワーク

厚木市内のホトケドジョウ調査

厚木市内のホトケドジョウ分布図

生息地状況写真

模様の違う４つグループ
調査結果

神奈川県自然保護協会

協会紹介
協会の概略
啓発誌・情報紙
自然観察会・見学旅行
環境教育支援
啓発
生きものと私たち
生物多様性が育む文化
生物多様性のめぐみ

神奈川野生動物救護連絡会
＋　神奈川ウオーターネットワーク

釣り針、釣り糸調査
釣り針、釣り糸の回収　結果と提言
提言　・アユ釣りは　友釣り専用区間の割合を増やす
コロガシ釣りができる区間と期間を短くする。
・川の釣り針、釣り糸清掃は、有料期間終了直後が有効
・野外で釣り針や釣り糸を見つけたら拾って帰る。
釣り針、釣り糸調査　救護される鳥は氷山の一角
回収された釣り糸
釣り糸の絡まったセグロセキレイ

実物や吊す飾りなどにぎやかに

神奈川トンボ調査・保全ネットワーク

調査スタイルで熱演
生い立ち　会則　会の運営
県内での活動　埋め立てられる北川湿地からヤゴの救出・移植
埋め立てられる棚沢の池からドブガイ救出
相模湖ＰＦビオトープ　スイレンの駆除
アサヒビオガーデンの環境保全作業
横浜・リュウキュウベニイトトンボ駆除
横浜二つ池外来水草駆除・植生管理
愛川尾山耕地での調査・保全・アメリカザリガニ駆除作業
研究発表・勉強会など
県外の活動
新潟・マダラナニワトンボ保全作業
桶ヶ谷沼ベッコウ池保全作業
浜松ベッコウ池アメリカザリガニ駆除作業
浜松遠州浜後背湿地保全作業
木更津ネアカヨシヤンマ調査
沖縄本島トンボ調査
シャープゲンゴロウモドキ保全作業
我孫子オオモノサシトンボ保全作業
岐阜グンバイトンボ調査
新潟ナゴヤサナエ調査
滋賀オオサカサナエ調査

サークル愛川自然観察会

八菅山いこいの森あおぞら博物館運営事業（愛川町提案型共同事業）紹介
観察会
展示施設
外来種駆除・啓発
ゴイサギ剥製

相模川・桂川流域協議会
アメリカザリガニ調査拡大実行委員会

アメリカザリガニ調査　2012-2014
調査概要　相模川流域採集質量分布図
啓発呼びかけ

渋沢丘陵を考える会

食菌性甲虫が多種生息。八國見山だけで２１種（丹沢山地全体で４３種）内神奈川県レッドリスト掲載種３種
地形が急峻なので守られた山地性のものが生息し丹沢との連続性がある。
開発問題経過の新聞記事切り抜きなど資料
ＤＶＤから
神奈川県地域環境評価で　A1 ランクの場所に強引に開発を進めようとしている。
渋沢丘陵を考える会は、多くの団体の協力を得て、神奈川県や秦野市に問題点の指摘を行って来たが、秦野市長は開発許可を出した。
行政が進める手続きは、市民の意見を無視している。
里山は社会共有の財産としてその価値が全国で見直されている。行政は市場原理や一過性の需要に囚われず将来を見据えた対応をする事が求められている。

丹沢大山自然再生委員会

自然再生中の丹沢大山(写真)
再生委員会紹介
再生委員会の活動

東京農業大学ボランティア部

厚木の里地里山の現状
厚木の里地里山での活動
チーム　変竹林

七沢里山づくりの会

活動写真

日本オオカミ協会神奈川県支部

オオカミのコスプレも

食物連鎖の頂点にいたオオカミの復活を
丹沢にオオカミを話した場合の想定生息域図
丹沢周辺に残る日本オオカミの記録
シカによる植生衰退（日本各地）
オオカミの生態写真
シカによる樹木剥皮、食痕標本
オオカミのいる自然ジオラマ

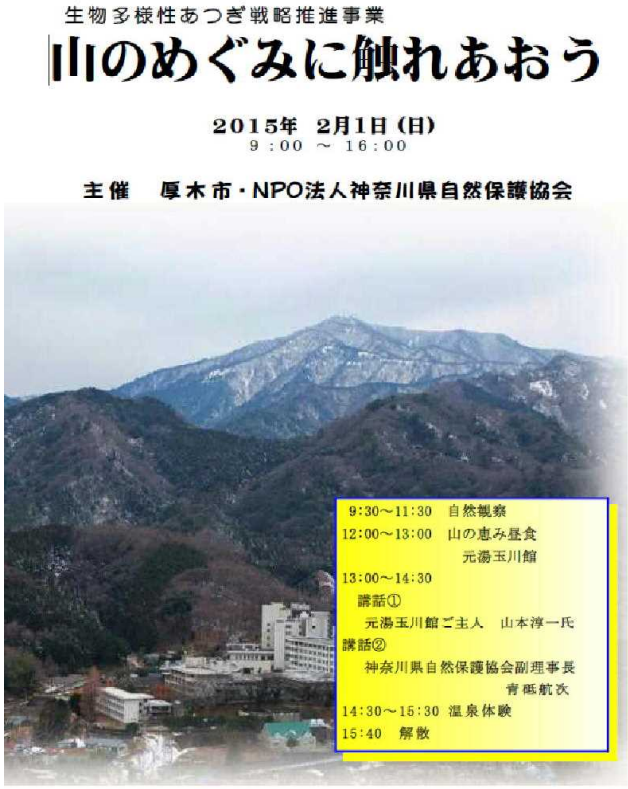
ホタルのふるさと瀬上基金　角田

現地案内図・活動のようす
開発地域の魅力を伝えるポスター
開発地域を示す航空写真

みろく山の会

みろく山の会自然保護部活動
清掃登山
巡視と登山道整備
水切り設置
登山道脇ミヤマクマザサ植栽
丹沢自然再生への取組
ヤドリキ水源林やヤビツの森での活動
高校生登山部による「高校生やまみち再生体験」
各団体への協力
秦野ビジターセンター　労山（勤労者山岳連盟）

丹沢の山は荒れ放題



当日の資料

生物多様性あつぎ戦略推進事業の一環として左の事業を行いました。

厚木市の事業なのですが、当協会と共催事業と言うことで、当協会事業に良く参加される方にも特別にご案内しました。

＊今後も川のめぐみなど計画があります。ご希望の方には連絡差し上げます。

当日は好天に恵まれ、七沢森林公園では自然観察しながら気持ちよく歩けました。参加者は冬枯れと思っていた自然の中で生きものの姿にびっくりしたり、目の下の谷が南の海から来た丹沢山地が本州に衝突した最先端という説明に驚いたりしました。

昼食は、七沢温泉元湯玉川館で、清川特産の清川恵水（めぐみ）ポークや鯉など地元ならではの食に舌鼓を打ちました。

午後は、玉川館ご主人による、自然の中でこそ、そして古い時代の建物を大事にしての経営のお話を伺いました。

最後は、源泉のお湯に浸かっての締めくくりに豊かな一日を過ごしました。

神奈川県内自然保護ニュース

（このページに掲載する情報をお寄せください。）

渋沢霊園開発問題　１１月～１２月

急傾斜地を削って造成する計画は妥当か。

現地、八国見（やくにみ）山（３１９メートル）南面区域は箱根火山の火山灰地で凝灰質（ぎょうかいしつ）泥岩層の断層破砕帯がある。渋沢丘陵一帯では１９２３（大正１２）年の関東大震災の際、あちこちで斜面が崩落。八国見山近くの震生湖（しんせいこ）は、崩れた土砂で沢がせき止められてできた。

渋沢丘陵の土地利用を図ろうとした市は、８０年代に企業や研究施設などを誘致する「ブレインヒル構想」を打ち出し、公団が開発条件を調査した。この調査結果を基に市は９１年、「原則的には土地の造成は行わない緑地保全の区域」を指定。南面区域の開発については「小規模な土地利用の転換等」と条件が付けられた。

１９８７年に実施された住宅・都市整備公団（当時）の「渋沢丘陵地区開発条件調査」で、「（南面区域は）急傾斜の断層地形であり、地形改変はできる限り避けることが望ましい」と判定されていた。「渋沢丘陵を考える会」調べ。

毎日新聞　2014 年 11 月 8 日神奈川版による。

なし崩しに進む工事

事業者の公益財団法人「相模メモリアルパーク」（愛川町）が、開発予定地の近くに設置した都市計画法による開発許可、林地開発行為許可や施工業者などを記した標識から、霊園開発の工期は１０日から２０１８年５月３１日までとされている。

着工について自然保護グループは「県西部に残された貴重な自然の大規模破壊は、自然環境と生物多様性の保全を根底から否定する暴挙。数多くの違法行為がある中で、開発の強行は到底、許されない」としている。

毎日新聞　2014 年 11 月 11 日神奈川版による。

霊園の予定地は、湘南地域の株式会社とその経営者が土地を所有している。市は今年１０月３日、土地所有権移転登記の手続き完了を確認していないにもかかわらず、土地譲渡契約書だけで霊園経営の許可を出し、事業者はこの許可を受けて１１月１０日に着工した。

市墓地条例では、霊園事業者は霊園経営の許可申請後１カ月以内に地権者から土地の譲渡を受ける契約書を提出し、市が契約内容の履行を登記簿で確認した上で許可を出すことになっている。墓地埋葬法に基づく国の指針にも、「墓地予定地は自己所有であることが原則とされるべき」と明記されている。

市側は「契約書が提出されているので問題ない。早急に手続きを進めるよう指導している」している。

さらに、墓地の永続性を担保する経営計画も明らかになっていないことが分かり、市議会で露木議員は経営許可の取り消しを求めた。

毎日新聞　2014 年 12 月 12 日神奈川版による。

近くの集落から霊園開発予定地に通じる接続道路が､「農道拡幅工事」名目で施工されていたことが分かった。霊園の接続道路などの施設整備については、市まちづくり条例で事業者に市との事前協議を義務付けているが、協議を経ない先行工事として実施された。

農道が拡幅されたのは２００７年６月～０８年９月。約３００メートルにわたって幅４～４・５メートルに広げられた。路面はコンクリート舗装され、山側の切り土部分にはコンクリート護岸が設けられた。湘南地域の株式会社と一部住民が拡幅用地を市に寄付し、工事費は地元自治会が負担した。

工事費は自治会負担とされているが『自治会から工事費は出ていない』という住民もいて不明瞭。

「渋沢丘陵を考える会」（日置乃武子代表）メンバーは「計画書が出される前に行われた事前協議のない条例違反の先行工事」と指摘。これに対して市は「知らなかった」とした。

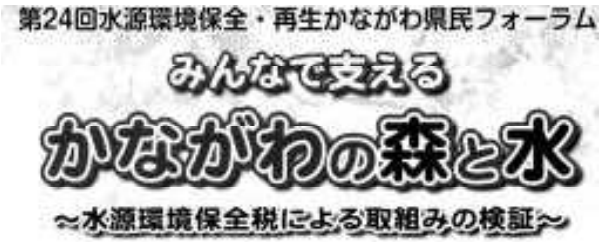
毎日新聞　2014 年 12 月 17 日神奈川版による

秦野・霊園問題:八国見山の「貴重な自然を破壊」市民団体、さがみ自然フォーラムで不当性訴える

「渋沢丘陵を考える会」（日置乃武子代表）は、厚木市文化会館で２１日に開かれた厚木市と神奈川県自然保護協会の主催「さがみ自然フォーラム」に参加し、貴重な自然を破壊する霊園開発の不当性を訴えた。

会場では、日本甲虫学会会員の斉藤理さん（３２）＝横浜市港北区＝が、八国見山周辺で調べた甲虫類の生息状況の報告などをパネルで展示。八国見山で昆虫や貴重植物を追い続けるビデオ撮影家の御法川直樹さん（５４）＝二宮町＝が今秋制作したビデオ映像「これで良いのか！　里山破壊」を放映した。鈴木和郎・考える会事務局長からは、参加した自然保護グループのメンバーらに開発の経過や反対運動の取り組みが報告された。

毎日新聞　2014 年 12 月 23 日神奈川版による。



神奈川県の水源環境保全の取組が、平成 28 年度で 10 年の節目を迎えることから、これまでの取組状況を紹介するとともに、県民のと意見交換するフォーラムが開催されます。

日時　平成 27 年３月 22 日（日）13 時 00 分～ 16 時 30 分
（開場（メイン会場）12 時 15 分）
※ レセプションスペースでは、11 時 30 分からパネル展示等による市民団体の活動紹介。

会場　横浜シンポジア　（横浜市中区山下町２ 産業貿易センタービル９階）
※ 入場無料、手話同時通訳有、託児サービス有（要事前申込）

内容
（１）基調講演　鈴木　雅一（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
（２）水源環境保全・再生の取組みのこれまで
（実績・成果報告）
（３）パネルディスカッション
◆テーマ
「かながわの水源環境保全・再生はどこまで進んだのか」
◆コーディネーター
田中　充（法政大学社会学部長、政策科学研究科教授）

◆パネリスト
浅枝　隆　（埼玉大学大学院理工学研究科教授）
内野　ミドリ　（ＮＰＯ法人かながわ森林インストラクターの会）
興梠　克久　（筑波大学生命環境系森林資源社会学研究室准教授）
高橋　弘二　（横須賀「水と環境」研究会代表）
中村　道也　（ＮＰＯ法人丹沢自然保護協会理事長）
（４）会場参加型討論（会場参加者とパネリストなどによる質疑・意見交換）
（５）　講評

定員　200 名（事前申込）
※ ３月 15 日（日）までに、住所・氏名・電話番号を明記の上、ホームページの申込フォームまたはＦＡＸによりお申込みください。
申込者多数の場合は抽選になります。
【FAX】045-210-8855
【ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ】http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/
主催　水源環境保全・再生かながわ県民会議
問合せ　神奈川県　環境農政局水・緑部　水源環境保全課調整グループ　葉山 045-210-4352（直通）

大震災から学ぼう
山・里・川・海のつながりを未来まで

5月10日(日) 13時～16時　　無料
茅ヶ崎市役所分庁舎６Ｆコミュニティホール
共催　生物多様性研究会・茅ケ崎自然連合
後援　茅ケ崎市・神奈川県自然保護協会・日本ビオトープ管理士会
★参加者は通信等とパネル１枚程度の展示可。連絡先 0467-82-1853　岸　しげみ

内容　１部　講演会　１３時～
東日本大震災の防潮堤問題から　生態系を基盤とした防災・減災を考える　慶應義塾大学環境情報学部教授　一ノ瀬友博氏
２部　交流会（つながろうフィールド）　１４時２０分～

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

本協会設立 50 周年記念行事

本協会は１９６５年１０月１日に設立されました。
今年が５０年の節目の年になります。
記念行事としてのおよその形が決まってきています。
メインの行事としては、１０月１７日（土）神奈川県労働福祉センター（Ｌプラザ；石川町）で本協会や協賛する自然保護関連団体によるポスター交流会、記念講演を行い、その後祝賀懇親会を行います。
また、それに先立つ１０月１２日（月・祝）、１３日（火）の２日間、横浜駅東口そごう百貨店入り口にある広場、「新都市プラザ」を借りることになっています。
県民向けに皆様のお知恵を借りて、話題性のある啓発行事を行いたいと思っています。
会員皆様のご意見をご意見をお寄せ下さい。

神奈川県内生物多様性　ホットスポット　１９０箇所選定

２０１２年に関係の研究や活動する団体にアンケートを実施しました。その内容について専門家からの追加補足や現地調査も加えて選定委員会で検討を続けてきました。
このほど１９０箇所に整理した内容について年度内を目途に最終的なまとめ作業を行っています。
折しも協会５０周年を迎え、記念碑的な事業としての位置付けにもなります。
また、神奈川県が策定する、生物多様性１次戦略も２０１５年度中にはでき、２０１６年度実施になります。
両者が連動して神奈川県の自然保護の今後に力が持てることを期待したいと思います。

訃報　柴田敏隆　元副会長が逝去されました

柴田氏は、横須賀市博物館に長く勤められ、その間に故金田平氏と共に「三浦半島自然保護の会」を作られました。
ここで自然に親しむには、植物の押し葉標本を作り、或いは昆虫採集をするのが常道と思われていた時代に、採らない、殺さない自然観察方法の基礎を作り上げられました。
これは著書等を通して日本全国に広がりました。
会誌「かながわの自然」を見返すと、折に触れて氏の書かれたことから、本会の思想的バックボーンとして牽引されてきたことが伝わってきます。
まだまだ活躍してご指導を仰ぎたいところです。心からのご冥福をお祈りいたします。

ニュースレター　80号
2015年　2月　25日発行

特定非営利活動法人
神奈川県自然保護協会
〒243-0816　厚木市　林　5－15－10　青砥方
TEL&FAX　046-222-2356
http://www.eco-kana.org
Eメール：nacs-kana-office01@eco-kana.org
郵便振替口座　00230-0-112653　銀行からの振り込みは　ゆうちょ銀行(9900) 029（ｾﾞﾛﾆｷｭｳ)店　当座 0112653